

金沢以西で建設が進む北陸新幹線敦賀延伸工事の高架橋基礎工事に、新日鉄住金と新日鉄住金エンジニアリングが展開する回転圧入鋼管杭「NSEコパイル」が相次いで採用された。使用されたのは「小松木場潟（北）高架橋」（延長2289㍎）と同（南）高架橋（延長2645㍎）の二つの工区で、合わせて1万2400ト。両工区では、鉄道高架橋の基礎工事として国内初となる「斜杭施工」が一部で採用された。

新日鉄住金グループの「NSEコパイル」

斜杭の施工現場



打設されるNSEコパイル



れた。

小松木場潟（南）

では同鋼管杭480

さらに、軟弱高架橋（佐藤・三軌0ト、271本が施工される）に、同鋼管杭が長く（IMKJV）では、そのうち1本が斜杭施工される。杭径1300×1519本が斜杭施工される。9月末から打設を開始し、来年4月まで大きな水本が施工される。使の完了を目指している。平抵抗力を確保用量は7600ト。

「NSEコパイル」は、らせん状に加工された鋼板（羽根）を先端に溶接した鋼管杭。鋼管を回転させながら、地盤を掘削することなく無排土、低振動・低騒音で施工できる。このうちRCラメ

北陸新幹線の鉄道高架橋基礎

国内初の斜杭施工

斜杭は全旋回機を傾けて回転圧入するため、直杭以上に品質の確保が難しい施工方法。同グループでは東海環状自動車道などこれまで道路分野で豊富な実績をもっていた。

礎杭として多数の採用実績があったが、鉄道構造物に斜杭施工されるのは今回が初めて。

金沢以西の路線の多いため、場所打ち道建設・運輸施設整備完了する予定。うち小松市木場潟付近は、潟の埋立にべ耐震性が高く被圧合技術研究所の共同場潟（北）高架橋より地盤が非常に軟弱で、被圧地下水が圧入鋼管杭が採用さ適用された。

（鉄建・T S U C H I Y A ・ 向 出 J V ）

これは続き小松木場潟（北）高架橋分野で豊富な実績をもっていた。

